

奈良・平安時代

中嶋友文

当センターがこの20年間に、調査した奈良・平安時代の遺跡は、奈良時代が約40遺跡、平安時代が約130遺跡、特に八戸市周辺地域と青森市から弘前市にかけての津軽地域に多く見られる。

時期的には八戸市周辺地域は奈良から平安時代前半の調査例が多いのに比べ津軽地域はどちらかといえば平安時代を中心であり、青森県において八戸市周辺地域と津軽地域は土師器文化の波及に相違があったと考えられる。以下簡単に遺構と遺物に分けて記載する。

遺構

古代の遺跡から検出される遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、竪穴遺構、井戸跡、溝跡、環濠、土壘、土坑（土壙）、炭窯、製鉄炉、鍛冶場、焼成（土坑）遺構、道路跡、畠跡、須恵器窯跡などがあげられる。

・奈良時代

7世紀から8世紀の集落としてセンターが調査した遺跡は八戸市周辺地域が多く、八戸市鶴窪遺跡・弥次郎窪遺跡（間仕切りと考えられる床溝（根太？）をもつ竪穴住居跡）・櫛引遺跡・丹内遺跡（7世紀前葉の竪穴住居跡）・下田町中野平遺跡・向山遺跡、南部町前比良遺跡、六戸町堀切沢（3）遺跡などがある。その他の地域として三沢市小田内沼（1）遺跡、十和田市大和田遺跡のほか、下北半島の東通村銅屋（3）遺跡、大間町小奥戸（2）遺跡、浅瀬石川流域の尾上町李平下安原遺跡などがあげられ、この時代の遺跡は県内において地域的な偏りがみられる。

・平安時代

9世紀から10世紀の集落は県内に広く分布し、六ヶ所村発茶沢遺跡では、竪穴住居跡が完全に埋まりきらずにくぼみとして確認され、東通村アイヌ野遺跡でも埋まりきらない竪穴住居跡とその周囲に土手状の盛り土が認められている。また、この時期の遺構の堆積土から十和田a火山灰（T o-a）や苦小牧・白頭山火山灰（B-Tm）が検出されることが多く、この2種類の火山灰は10世紀前半に下降したと考えられ、本県の平安時代の鍵層とされている。

調査した遺跡を地域別にみると八戸市では、和野前山遺跡・売場遺跡・松館遺跡・丹内遺跡などが調査され、櫛引遺跡では奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が53軒検出されている。隣接する下田町では、下谷地（1）遺跡や中野平遺跡が調査され、中野平遺跡でも奈良時代から平安時代前半の竪穴住居跡48軒、竪穴遺構24基、掘立建物跡20棟のほか円形周溝5基検出されている。六戸町長谷遺跡では竪穴住居跡のほかに土器埋設遺構（土師器壺1、須恵器甕1・壺2）が検出されている。南郷村砂子遺跡では、9世紀後半～10世紀前半の竪穴住居跡49軒が調査されている。小川原湖周辺の六ヶ所村では、沖附（1）遺跡で竪穴住居跡37軒のうち、3軒が竪穴周辺に盛土（周提）が確認され周提下層にB-Tmが堆積し、7軒が斜面に構築する際に低い方に土盛りをしている。家ノ前遺跡でも周提が確認されている。そのほかに弥栄平（4）・（5）遺跡、発茶沢（1）遺跡、上尾駒（1）遺跡、上尾駒（2）遺跡、唐貝地遺跡などが調査され、上尾駒（2）遺跡では、土器埋設遺構（土師器の甕の上に須恵器系の壺を埋設）が検出している。

青森市では、数多くの竪穴住居跡が調査され、特に朝日山遺跡（朝日山⁽²⁾・⁽³⁾遺跡を含む）が201軒、新町野遺跡が31軒、野木遺跡が⁽¹⁾377軒検出している。そのほか三内丸山⁽²⁾遺跡、安田⁽²⁾遺跡、山下遺跡などでも平安時代の竪穴住居跡が検出されている。浪岡町でも山本遺跡、山元⁽²⁾遺跡、山元⁽³⁾遺跡、松山遺跡、羽黒平⁽¹⁾・野尻⁽¹⁾遺跡、野尻⁽²⁾遺跡、野尻⁽³⁾遺跡、野尻⁽⁴⁾遺跡、平野遺跡、高屋敷館遺跡などの平安時代の遺跡が調査され、合わせて400軒を超える竪穴住居跡を検出し、その多くが掘立柱建物跡や外周溝を伴うものである。また、10世紀後半の集落として、野尻⁽⁴⁾遺跡や高屋敷館遺跡のように土壘や環濠で集落を囲んでいるものもみられる。尾上町李平下安原遺跡では奈良時代末期から平安時代前半にかけての竪穴住居跡が142軒、五輪野遺跡が53軒のほか、常盤村水木館遺跡、弘前市独孤遺跡・茶毘館遺跡・尾上山⁽³⁾遺跡・宇田野⁽²⁾遺跡、五所川原市実吉遺跡、隠川⁽³⁾遺跡・隠川⁽⁴⁾遺跡・隠川⁽¹²⁾・隈無⁽²⁾遺跡などが調査され、いずれも平安時代の集落である。

鰯ヶ沢町空沢遺跡では、10世紀後半から11世紀前半の竪穴住居跡のほか製鉄関連の遺構が、外馬屋前田⁽¹⁾遺跡や深浦町津山遺跡などでも竪穴住居跡を検出している。

一般的に竪穴住居跡の形態はカマドを持つものが普通であるが、カマドや柱穴を持たないものもみられ、掘立柱建物と合わせた数軒を一つの家族（生計を共にする）が所有していたと考えられる。その内で近年検出されたことが多くなった建物跡には3種類存在し、①竪穴住居跡 + 外周溝、②竪穴住居跡 + 掘立柱建物跡、③竪穴住居跡 + 掘立柱建物跡 + 外周溝の3種類が存在する。建物跡が検出された主な遺跡として六ヶ所村発茶沢⁽¹⁾遺跡、浪岡町山本遺跡・山元⁽²⁾遺跡・山元⁽³⁾遺跡・羽黒平⁽¹⁾遺跡・野尻⁽¹⁾遺跡・野尻⁽²⁾遺跡・野尻⁽³⁾遺跡・野尻⁽⁴⁾遺跡・隠川⁽³⁾遺跡、青森市朝日山⁽³⁾遺跡・山下遺跡、弘前市宇田野⁽²⁾遺跡などが調査されている。用途について意見が分かれるが、とりあえず掘立柱建物跡は倉庫や作業場、外周溝は排水施設と考えられる。⁽²⁾



青森市朝日山遺跡



青森市野木・新町野遺跡



浪岡町高屋敷館遺跡

野木遺跡では、多くの竪穴住居跡の中に唯一柱穴を持たず礎石と考えられる礎が設置されている竪穴住居跡が検出されている。礎石を持つ竪穴住居跡は東北地方では初の検出例で、おもに中部地方にみられ、その地方との関連が考えられる。

竪穴住居跡に伴う施設として、上尾駒(1)遺跡で竪穴住居跡の西側に張り出しの施設、宇田野(2)遺跡から竪穴住居跡から出入り口のスロープ状の施設が検出されている。

また、野木遺跡・隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡からは、竪穴住居跡の床面から土器製作に用いたピット（ロクロピット）が検出され、遺跡内から方形で壁面や底面が焼成を受けている土坑（焼成遺構）も検出され、野木遺跡（青森市教育委員会調査⁽³⁾）では、焼成前と考えられる土師器も出土している。さらに出土した土師器と遺跡内の粘土の胎土分析（蛍光X線）を行った結果、成分構成が一致する土師器もみられることから、遺跡内で土師器の製作が行われていたと考えられる。

そのほか野木遺跡では、土坑の周りに溝と柱穴をもつ便所遺構や幾つかの竪穴住居跡を囲む柵跡、溝状に硬化面を持つ道路跡、硬化面が段上に確認された階段状遺構などが検出されている。近年道路跡などの検出例が増加している。

井戸跡の検出されている遺跡は、浪岡町隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡・野尻(3)遺跡・野尻(4)遺跡・山元(2)遺跡、青森市朝日山(2)遺跡などがあり、幾つかの井戸跡からB-Tm火山灰の堆積がみられることから9世紀代の井戸跡と考えられる。一般的に井戸跡の検出例は少なく、沢や河川を利用していたと思われ、青森市野木遺跡では沢筋に水場が作られ木枠のほか排水のための水路などが検出されている。

鉄の生産（製鉄）は、燃料の豊富な岩木山麓を中心に鉄生産（精錬）が始まり、大規模な生産拠点として発展し、鉄の量産体制とあわせて加工（鍛冶）技術も急速に広まり、農具・工具など多くの道具が鉄製に変わり、生産体制に大きな変化をもたらしたと考えられる。主な遺跡として浪岡町山本遺跡では、2基の製鉄炉検出され第1次精錬が平安時代に津軽地方に伝わっていたと推定された。六ヶ所村上尾駒(2)遺跡では、鉄を加工した鍛冶場遺構が、鰯ヶ沢町の杣沢遺跡では、製鉄炉跡34基、鍛冶場跡3基、炭窯3基など古代の鉄生産を具体的に知る上で良好な資料となっている。そのほかに浪岡町山元(2)遺跡・羽黒平(1)遺跡・高屋敷館遺跡、鰯ヶ沢町外馬屋前田(1)遺跡、青森市朝日山遺跡・新町野遺跡・野木遺跡などでも鉄関連の遺構が検出されている。

畠跡と思われる遺構は五所川原市隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡、浪岡町山元(2)遺跡のほか青森市野木遺跡・朝日山(2)遺跡でも検出されている。畠跡の確認は、畠間に火山灰などが堆積している場合を除いて難しく検出例は少ない。畠跡から栽培されている作物の特定は難しいが、遺構内から出土している炭化種子は、イネ、コムギ、オオムギ、マメ類などがあげられる。

東北北部にみられる円形周溝は、中野平遺跡、野尻(2)遺跡、野尻(3)遺跡などで調査されたが、遺体を埋葬したと考えられる主体部は検出されていない。一般的な平安時代の土坑墓の検出例は少なく、県内で人骨が出土した遺跡は李平下安原遺跡と八戸市殿見遺跡ぐらいである。李平下安原遺跡の31基の土坑墓のうち第61号土坑から古代の人骨が出土しているがアイヌ的要素は認められないという。また、ウマ・ヤギ・ウシの獣骨も出土しており古代の家畜を考える上で貴重な資料である。いずれにしても、面的な調査例が少ないため墓域が集落内なのか集落外なのかは不明である。また、上尾駒(2)遺跡、長谷遺跡、野尻(1)遺跡から土器埋設遺構が検出されているが用途等については不明であり、今後の発掘事例が期待される。

・遺物

古代の遺跡から出土する遺物は土師器と須恵器のほか木器（漆器）・鉄製品・銅製品・土製品・木

製品・石製品などがあげられる。

土師器は縄文土器と同様に野焼き(焼成遺構で焼かれる例もある)によって焼かれ、器種として壺、甕、高壺、壺、甕、壠、耳皿など日常の食生活で使用される物が多く、形の変化や製作技法から年代や地域的な特徴を把握することができる。特に砂底の甕や壠などは時期的・地域的な特徴をもっている。また、火山灰の堆積した豊穴住居跡からの出土遺物は編年上の資料とされることが多く、アイヌ野遺跡や朝日山遺跡などから好資料が出土している。その他に高屋敷館遺跡の片口土器や内耳土器、中野平遺跡・山元(3)遺跡・野木遺跡などからの北陸型甕、山元(3)遺跡の須恵器模倣の双耳壺なども興味深い資料であり、陸奥湾に面した遺跡を中心に製塩土器も出土している。

須恵器は登窯などで焼かれ、器種として甕、壺、壺などがあり、おもに南から搬入されていたが、9世紀ごろから五所川原産須恵器が主体を占めるようになる。弥栄平(4)・(5)遺跡の豊穴住居跡から出土した須恵器の胎土分析の結果では、加賀南部・秋田・山形・能登半島・五所川原などで生産されたと推定され、日本海沿岸を中心に各地から搬入されており、海上交通路などの問題が指摘されている。また、土師器に文字(墨書)須恵器には文字や記号(刻書)が記されたものも出土し、その関わりも議論されている。⁽⁴⁾

土製品は土鈴、土玉、勾玉など祭祀的遺物のほか、土製の錘や紡錘車などが出土している。李平下安原遺跡から勾玉と土製紡錘車、発茶沢(1)遺跡・空沢遺跡から土錘、羽黒平(1)遺跡・野尻(2)遺跡から土鈴が、山元(2)遺跡からは土鈴が46点も出土しており興味深い。野木遺跡から土玉と勾玉、高屋敷館遺跡から土鈴と土玉などが出土している。野尻(4)遺跡では、土玉と勾玉8個がカマドに隣接した床面から出土し、カマド神の信仰に関連する可能性が考えられる。

鉄製品は鍛冶技術の普及に伴い刀子、鉄鎌のほか鍬・鋤・鎌・斧・鉋・鑿・釘・紡錘車・芋引金・釣針などの農具や工具等が出土している。李平下安原遺跡・野木遺跡・高屋敷館遺跡からの錫杖状^{しゃくじょう}鉄製品や五輪野遺跡の鏡^{よう}・柄香炉などの仏具が出土している。また、高屋敷館遺跡から銅椀破片と自在鉤状の銅製品、野木遺跡からの銅椀破片も特筆できると遺物と思われる。

木製品は木器・曲物・箸のほか、菰柾^{こもつち}・下駄、櫛などがみられる。和野前山遺跡の木器の皿、高屋敷館遺跡の菰柾・豎杵・漆椀、李平下安原遺跡の櫛などのほか、野木遺跡では、木器・曲物・箸・菰柾、口クロ回転台の回転盤⁽⁵⁾が出土している。

そのほかの遺物として、丹内遺跡からは7世紀前葉の豊穴住居跡から琥珀塊と破片が4点、新町野遺跡からは石製帯飾具(丸鞘)などが出土している。また、発茶沢(1)遺跡から炭化米とトチの実、李平下安原遺跡から麻の種子・米・大麦・スモモ・オニグルミ・トチの実、山元(2)遺跡から米・小麦・アワ等、野木遺跡から米・小麦・大麦・豆類などの食料の他、山元(3)遺跡では漆皮の残片なども出土している。

以上、簡単に遺構と遺物について記載したが、この20年の調査から古代の生活が徐々に明らかになってきており、さらに今後の発掘調査につなげてほしいと思っている。

(青森県埋蔵文化財調査センター文化財保護総括主査)